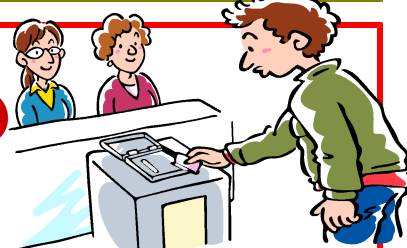




The next higher view

～1つ上の景色～



新しい"金沢のトップ"を迎えることとなる『金沢市長選挙』には、2019年より前副市長を務めていた村山 卓氏が出馬することとなり、総務省職員※(出向)他等をそれぞれ退職されてからの出馬表明となることから、まずは『市制の停滞』を招かぬように、山野前市長と共に市制に携わり市役所内を把握している経験と実績があるからこそ、「市長」としての舵取りができる即戦力!!としての熱い思いは勿論、新型コロナ感染拡大における市民の不安を最小限に収めるための「重責」等にも、これまでの活動実績が存分に活かされる"最高のタイミング"での選挙戦にも注目したいと思います。

※ 村山 卓氏の総務省(旧自治省含む)職員としての主な勤務先

- 1996年7月1日～1998年4月1日 ……岩手県庁勤務
- 2002年4月1日～2005年4月1日 ……仙台市役所勤務
- 2009年7月19日～2011年3月31日 ……愛媛県庁勤務
- 2012年4月1日～2014年4月1日 ……川崎市役所勤務
- 2014年3月31日～2017年3月30日 ……香川大学大学院(地域マネジメント研究科MBA)教授
- ★ 2018年8月1日～ 防衛省日米防衛協力課日米同盟調整企画官
- 2019年4月1日～2022年2月15日 ……金沢市役所勤務

現在、他にも 森 一敏氏(前市議会議員)、永井三岐子氏(元国連大学職員)、小間井大祐氏(前市議会議員)、中内晃子氏(市民団体)が立候補を表明しており、2010年の市長選挙と同じく過去最多の候補者による超短期決戦による1枠を争う闘いとなります。

前副市長

たかし

村山 卓

★ 年齢：49歳

★ 出身地：東京都練馬区

★ 最終学歴：慶應義塾大学 総合政策学部卒

★ 地域公共政策および自治体財政政策が専門



重要 Point

～培った経験値を遺憾なく発揮する即戦力の実績をもつ2人に期待!!～



3月13日(日曜)に投開票が行われます石川県知事選挙には前金沢市長の 山野之義氏が出馬(市長辞職)を決めており、それに伴う金沢市長選挙には前副市長の 村山 卓氏が正式に出馬の意思を固めております。

金沢市従業員労働組合における話し合いの中でも、これまで市制発展のために多くの施策(政策)を展開してきた両氏における素晴らしい力こそが、更に今後も大いに発揮されることを願い、全面支援体制による『推薦』の方針を決定致しました。

ご承知の通り、山野之義氏は金沢市長として3期(約11年間)、市議会議員としても4期(約15年間)にわたって「金沢」の発展に向け、市民と共に『世界と未来に誇れる"まち"を築く』をテーマに、北陸新幹線開業(2015年3月)による地域経済の活性化や金沢マラソン(計7回)等のスポーツ事業への投資、公衆無線LAN(KANAZAWA-FREE Wi-Fi)の拡充、家庭ごみ有料化(2018年2月)等のあらゆる場面で、金沢市の代表(リーダー)としての圧倒的な存在感を見せてくれました。

2010年11月に行われた金沢市長選挙にて、6選を目指していた現職の 山出 保氏(当時:79歳)が56,840票、そして無所属新人で挑んだ 山野之義氏(当時:48歳)が58,204票で、1,364票上回っての初当選を果たした『歴史的瞬間』であり、市長職における多選自粛が叫ばれ『市政刷新』という言葉が地元の多くの若い世代を巻き込んだ"新たな風"として、支持を集めた結果が5期20年の経験や実績を打ち破った、記憶に残るかつてない出来事(選挙戦)でした。

今回行われる『石川県知事選挙』も7期(28年間)務めた 谷本正憲氏が退任を表明され、立候補3名が保守系(自民党系会派出身者)となり、馳 浩氏(前衆議院議員)、山田修路氏(前参議院議員)、共産党からも飯森博子氏が立候補しており、経済の活性化、過疎化・高齢化・少子化における対策、感染症対策等が焦点となっており、大混戦の選挙戦は1963年に故中西陽一氏が初当選した、昭和(後半)～平成～令和の現在に至るまで、知事が2人しか存在していない『多選知事王国』の歴史が変わるためにも、自らに課した"多選自粛条例"に基づき市長職を辞任した経緯からも、何より「約束を守ること!!」に着目し、何が最善の方法かを常に心に留めて決断・実行してきた 山野之義氏に、これからの石川県の未来を託せる『安心感』と『行動力』に期待が膨らみます。



前金沢市長

ゆきよし

山野之義

★ 年齢：59歳

★ 出身地：石川県金沢市

★ 最終学歴：慶應義塾大学 文学部仏文科卒

★ 1990年4月～1994年8月31日迄の間、ソフトバンク(株)勤務

